浜中町立茶内小学校「学校だより」

THE　茶内小　TIMES

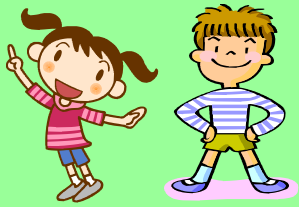
令和５年（2023年）３月13日発行　VOL 50

「幸せ」な学校

浜中町立茶内小学校長　冨　田　直　樹

2000年12月に神奈川県川崎市において、川崎市の「子どもの権利条例」が制定されたとき、子どもたちから大人へのメッセージが次のとおり送られました。

まず、大人が幸せにいてください。
大人が幸せじゃないのに、子どもだけ幸せにはなれません。
大人が幸せでないと、子どもに虐待とか体罰とかが起きます。
条例に「子どもは愛情と理解をもって育まれる」とありますが、まず、家庭や学校、地域の中で、大人が幸せでいてほしいのです。
子どもはそういう中で、安心して生きることができます。



子どもの権利条例子ども委員会のまとめ（2001年３月24日　条例報告市民集会）

このメッセージは、「子どもが幸せになる学校は、まず大人である教職員が幸せであることが必要です」ということを子どもたちが教えてくれているのだと思います。教職員が幸せでないと、子どもにとっても不幸なことが起こってしまうかもしれません。子どもだけ幸せにしようとしても無理なのかもしれません。

では、教職員が幸せになれる学校は、どのようにつくっていけばよいのでしょうか。学校法人湘南学園長の住田昌治氏は、「健康」、「人間関係」、「自己決定」という３つの要因をあげています。

住　田　昌　治　氏

【健康】

健康で大切なのは、しっかり食べることとゆっくり寝ることです。食べることも寝ることも、人間が生きていくためにとても大切なことです。しかし、これまでは「浸食を忘れて働く」ことが美徳とされてきました。これからは、「浸食を忘れずに働く」ことを美徳とする考え方に変えていくことが健康には欠かせません。

【人間関係】

互いの違いを認め合い、受け入れることが大切です。共感することだけを求めるのではなく、違和感をも大事に受け止めていくことです。互いをケアし合い、気に掛けたり、声をかけたりし合える関係を日常的に行っていけるように心掛けることです。また、人をコントロールしようとするのではなく、信頼をベースに置くことも重要な在り方です。

【自己決定】

誰かに言われてやるのではなく、自分で考えて決めていくことが大切です。自分で決めたことは、責任をもってやり遂げようとしますし、困難なことがあっても工夫して乗り越えようとします。自分で決められることは、意外と心地よいものです。任されているという信頼関係にもつながり、モチベーションも上がります。

子どもと一緒に未来を創る教職員が元気で幸せでないと、結局、子どもも幸せになれない。もっと早い段階で、このことに気付くべきであったと猛省しています。